

三浦半島種子植物の検討 (其の三)

大 谷 茂*

この報告は前報告(大谷 1958)に続くもので、それ以後三浦地区で新しく発見したもの、及び三浦半島植物誌(増島・石渡 1950)の訂正を要するものを以下各項について述べる。標本は横須賀市博物館に保管している。

1 *Gastrodia confusa* HONDA et TUYAMA アキザキヤツシロランを鷹取山で採取する

この種を発見した地点は鷹取山から追浜小学校に下る道と逗子高等学校に下る道との分岐点附近の阿弥陀谷で、そこは高さ3米位の岩壁が道路をはさみ、昼でも薄暗いところで木の葉の堆積によつた腐殖土であった。採取期日は昭和33年7月13日である。見事に開花したものが2株接近して出たが開花の時期と全体の大きさから始めは *G. gracilis* Blume かと思つたが、仔細に見ると *G. confusa* であると認めた。

ヤツシロランは多年生の腐生植物で葉緑のない地上生草本である。和名は最初の発見地九州八代の地名によるもので、本州(紀伊)、四国、九州の暖帯林下蔭所に極めて稀に産する珍しい種類である。関東地方ではあまり発見されず、今回の鷹取山は第3の産地に過ぎない。関東地方に於ける第1の産地は千葉県の安房、主基(浅野貞夫)であり、第2の産地は本県の足柄下郡橋町中村原、田代信二氏のところの竹藪である(西尾和子 Oct. 9, 1957)。神奈川県植物誌(1958)に中郡の二ノ宮に産することが確認されたとあるのは、この橋町中村原の誤りである。

鷹取山が本種の関東地区に於ける第3の産地となつたのであるが、第1、第2の標本を見ていないので比較することは出来ないが、鷹取山産の2株の標本について観察した点を以下述べてみる。

腐葉中に横臥する地下茎(根茎)は洋梨状で、単細胞の短毛がある(*G. gracilis*にはこの毛がない)、長径1.5—1.7cm短径0.9—1.1cm(橋町産のものは西尾氏の話では長径2.5cm短径1.0cm)厚さは2株共0.8cm。茎は断面丸く、帯白色で無毛、高さ21cm、6個の膜質卵形短鞘状の鱗片がつく(橋町産は茎は最大のもので14cm)。

苞は4mm稍々長卵形で小梗(3mm)より長くて稍々茎を包む。花軸の部は長さ5cmで花は1株には7個、他の1株は4個が総状につく(橋町産のものは花が7個)。花は稍々点頭し、腹面基部の膨出部と共に長さ1cm、花筒は鐘状で広い筒形、唇弁(Lip)中肋部僅かに薄桃色で他は白色、唇弁にある瘤状突起は扁四角柱状で唇弁は中央上部に二裂する隆起線がある。

山野の林中に生ずる多年生の無葉蘭で、これと同属のものに *G. elata* Blume オニノヤガラ一名ヌスビトノアシ一名テンマというものがある。本種は北海道、本州に分布するもので神奈川県植物誌(1958)には産地として横浜、鎌倉、橋樹(川崎)、都筑、丹沢、津久井、箱根とあるように県下各地から割合多くの採集報告がある。筆者は特に箱根附近に多いように認めているが、本年夏(Oct. 17, 1958)岩手県須川温泉側の栗駒山麓の林中で、はからずも本種を採集持ち帰つたので以下述べておくこととする。

この種は漢名を赤箭又は天麻といて、和名のオニノヤガラは鬼の矢幹の意味で茎を鬼の使用する矢に擬しての名である。又ヌスビトノアシは本種が一定せるところに生ぜず、その足の形状をなせる根茎から盗人の足という名が出たものである。

本標本の観察測定の結果は次のようである。腐葉中に横たわる塊茎は無毛で肥厚して大きく、長楕円形で宛もジャガタライモの観がある、長径8.2cm短径3.7cm厚さ2.7cm、横に環状の不明の線

*横須賀市博物館 逗子中学校長

がある、これは表面に排列する不分明の鱗片とみるべきものである。

茎は径6mm、真直に立ち、中実せる円柱状、平滑無毛で全長74.7cm、その上部20.7cmは総状花序をなせる部分で花部と共に茎全体が黄褐色をしている。茎上の鱗片葉は少々暗色を帯びて散着し下部根茎に接する附近のものは短鞘となって密に15個つき、それから次第に間隔をおいて5個の鱗片がある、この間隔は中部が最も広く上下次第にせまくなって(下から順に6.6cm、15.8cm、16.2cm、7.4cm、4.9cmの間隔)花序の部分に移行する。6—7月頃開花するのが普通だが、栗駒山では北方気候のためか8月17日採取せし時はまだ花時であった。短小梗を有せる花は密に花穂に集合し25個の花を数えることが出来た、花下の苞は子房より短く、外花蓋3片は合着して腹面膨出せる歪んだ壺状で口部は3裂している、内部に小さな内花蓋2片がある、そのために上部に5歯あるように見える、唇弁は卵状長楕円で爪部をもって壺状部の内面につき花蓋筒の口縁からその舌状を呈するさまが僅かに見える。蕊柱(結合雄蕊)Columnは稍長く両翼があって、その下方前面に柱頭がある。子房は下位で倒卵形。蒴は倒卵形で頂に遺存花蓋を冠むる。

2 次の種は三浦半島植物誌(1950)より削除することが妥当である

三浦半島植物誌(1950)発行以来、久内清孝、靱山泰一、檜山庫三諸氏から各種の意見をよせられ、その疑問点を指摘された。著者は以来今日まで実地調査を継続してきたが一応の結果が出てきたので、ここに報告し、併せて上記諸氏に厚き謝意を表す。尙最近発表した神奈川県植物誌(1958)には、そのまま引用されているものもあるので、本報告はそれの訂正(産地、三浦を除く)をも意味するものである。

Castanea crenata SIEB, et ZUCC. var. *Kusakuri* NAKAI クサグリ

Ficus pumila LINNAEUS オオイタビカズラ

三浦地区には *F. foveolata* WOLL. イタビカズラと *F. thunbergii* MAX. ヒメイタビ(神武寺、鴨居、三崎)のみである。

Boehmeria tricuspidata Makino アカソ

Korthalsella japonica ENGLER (*Bifaria opuntia* MERR) ヒノキバヤドリギ (Fig. 1)

この種は或いはその当時あったかと思われるが三浦半島植物誌には産地が出ていないので疑わしい。地名を示すべきである。本年10月8日著者は本種のイヌツゲに半寄生せる、しかも群生しているのを湯河原泉ヶ丘で見た。

Asarum asaroides Makino マルバカンアオイ

Chenopodium ambrosioides LINN. var. *anthermiticum* A. GRAY (*C. anthermiticum* LINNAEUS)

アメリカアリタソウ、アリタソウ

この地区にあるものは最も普通に見られる花穂顕著でなく、全株毛茸の多い *C. ambrosioides* Linn. ケアリタソウである。

Achyranthes japonica NAK. var. *hachijoensis* HONDA ハチジョウイノコズチ

この種は海岸型、無毛のものだが、この地区には見当たらない。

Cimicifuga acerina TANAKA var. *obtusiloba* NAKAI キケンショウマ

Machilus japonica SIEBOLD et ZUCCARINI アオガシ

この種は三浦にはない。*M. thunbergii* SIEB. et ZUCC. タブノキの葉の細いものとまちがえているのではないか。

Corydalis ophiocarpa HOOKER et THOMSON (*C. makinoana* MATSUM.) ヤマキケマン

本種の存在は甚だ疑問である。*C. heterocarpa* SIEB. et ZUCC. var. *japonica* OHWI キケマン一名ハマキケマンは猿島、観音崎、小原台、不入斗、坂本等に見られる。

Saxifraga Fortunei HOOKER fil. var. *incislobata* NAKAI ダイモンジソウ



Fig. 1. *Korthisella japonica* ENGLER ヒノキバヤドリギ
寄主は *Ilex crenata* THUNBERG (湯ヶ原町 樋口
動物園内)

富士、箱根の特産であり、ヤブイバラは伊勢、大和、紀伊、四国、九州に分布するもので関東にはないもの、オオフジイバラの名は甚だまぎらわしいのでさげたい。これ等は釈山泰一氏の所説のように一つに併せて *R. Luciae* FRANCH. et ROCHEBR. ヤマテリハノイバラでよいと思う。著者が三浦で見えるものは *R. Wichuiana* CRÉPIN テリハノイバラである。

Rosa rugosa THUNBERG ハマナス

この種を横須賀の堀ノ内で1回採集とあるが採取者も不明で、文献もなく、その標本もないので甚だ疑問である。栽培品か何かのまちがえであろう。

Lespedeza bicolor TURCZ. form. *acutifolia* MATSUMURA (*L. bicolor* TURCZ. var. *japonica* NAKAI) ヤマハギ、シラハギ

この種は無いともいえないが大分注意してきたが見出せない、栽培品か或は何か他のものではないか。しかし諸磯で見たものが (Sep. 20, 1958) 或はこのヤマフジではないかと思われるが目下検討中であるので何れ報告することが出来ると思う。*L. buergeri* MIQUEL キハギ、ノハギと *L. cytobotrya* MIQUEL マルバハギが最も普通に見られる。逗子神武寺池子参道沿いには、このキハギとマルバハギの間種、キハギで赤色花を開くものが見られる。その他 *L. homoloba* NAKAI ヤブハギや、*L. tomentosa* SIEBOLD イヌハギがある。このイヌハギは三浦半島植物誌に記録はないが諸磯海岸や野比千駄ヶ崎 (Oct. 12, 1953) 等に自生し夏白色花を開く。追補すべきである。

Wisteria brachybotrys SIEBOLD et ZUCCARINI ヤマフジ

この種は関西のもので関東にはないはずである。三浦に見るものは *W. floribunda* DE CANDOLLE フジ、ノダフジの方である。ヤマフジの茎は左巻きだが、フジは右巻のもので区別が

Prunus grayana MAXIMOWICZ ウワミズザクラ

Prunus Sargentii REHDER オオヤマザクラ、エゾヤマザクラ、ベニヤマザクラ

この種と上記のウワミズザクラの両方とも三浦にはない。オオヤマザクラは北方のものであるので三浦地区にはないはず、恐らく三浦に多く見るオオシマザクラ *P. Lannesiana* WILSON var. *speciosa* MAKINO の書きまちがえではないか、三浦半島植物誌にはむしろこのオオシマザクラを記録すべきである。又 *P. Buergeriana* MIQUEL イヌザクラ、シロザクラは神武寺池子参道の山に自生している (April 26, 1953)

Rosa fujisanensis MAKINO フジイバラ

Rosa luciae FRANCHET et ROCHEBR. オオフジイバラ

Rosa Luciae var. *Oroei* MOMIYAMA (*R. Oroei* MAKINO) ヤブイバラ

上記三種が三浦に自生しているかどうか、甚だ疑問である。フジイバラは

容易である。

Rhus trichocarpa MIQUEL ヤマウルシ

Acer cissifolium C. KOCH ミツデカエデ

Rhamnus davurica PALLAS var. *nipponica* MAKINO クロツバラ、ナベコウジ、オオクロウメ
モドキ

この種が葉山に産するとあるが、三浦地区ではどこにも見当たらない。

Rhamnus japonica MAXIMOWICZ var. *decipiens* MAXIMOWICZ コバノクロウメモドキ

Elaeagnus crocea NAKAI キミノアキグミ

Elaeagnus maritima KOIDZUMI アカバグミ

Elaeagnus submacrophylla SERVETTAZ オオバツルグミ

Elaeagnus pungens THUNBERG ナワシログミ

キミノアキグミというものは、アキグミ *E. umbellata* THUNB. の黄実品種にすぎないので変種か品種程度のものである。

三浦地区長者ヶ崎のキミノアキグミと記録されているものは、マルバアキグミ *E. umbellata* THUNB. var. *rotundifolia* MAKINO の黄実品であるから、キミノマルバアキグミとでもいうべきもので、マルバアキグミの一品種とすべきものである。

アカバグミは *E. glabra* THUNB. × *E. macrophylla* THUNB. でツルグミとマルバグミの雑種 *E. × reflexa* MORREN et DECAISNE (*E. Hisauchii* MAKINO) である。

オオバツルグミもアカバグミと同じものである。三浦半島植物誌にこのオオバツルグミが *E. submacrophylla* SERV. の学名を使っているのは誤りで *E. Hisauchii* MAKINO とすべきである。*E. submacrophylla* SERV. はオオナワシログミのことで、*E. pungens* THUNB. × *E. macrophylla* THUNB. で、ナワシログミとマルバグミの雑種 *E. × submacrophylla* SERVETTAZ (*E. Nikaii* NAKAI) と考えられている。この種は小石川植物園に大きなものが2株あるが本県内でも江の島、鎌倉等に栽培品として見る事が出来る。

ナワシログミ *E. pungens* THUNB. は栽培品として見るのみで三浦地区に野生はしていない。

Ligustrum acuminatum KOHNE ヤブイボタ

Ligustrum medium AITON オカイボタ

Ligustrum obtusifolium SIEBOLD et ZUCCARINI イボタノキ、イボタ

var. *heterophyllum* NAKAI ケオオバイボタ

Ligustrum ovalifolium HASSKARL オオバイボタ

Ligustrum kiyozumianum NAKAI キヨスミイボタ

var. *glabrescens* NAKAI ケナンキヨスミイボタ

三浦半島植物誌にイボタ属として上記のものが自生するように記録しているが、あまり多すぎて、しかもゴタゴタしているので次の様に整理するのが最も妥当であると考え。勿論イボタ類は人によって考え方もまちまちで大変むずかしいものだが靱山泰一氏の所説によって次の三群にまとめてみると結局三浦に産するものは、イボタとオオバイボタとケナンキヨスミイボタの三種ということになる。

a 群

Ligustrum ovalifolium HASSKARL オオバイボタ、*L. Hisauchii* MAKINO オカイボタ、*L. Hisauchii* var. *pubescens* MAKINO ヤブイボタ (ケオカイボタ)、*L. ovalifolium* HASSKARL オオバイボタ、*L. ovalifolium* var. *heterophyllum* NAKAI ケオオバイボタこれらは1つのものでオオバイボタに合併してよいものである。

b 群

Ligustrum obtusifolium SIEBOLD et ZUCCARINI イボタ

この種だけは別種とする。

c 群

Ligustrum kiyozumianum NAKAI var. *glabrescens* NAKAI ケナンキヨスミイボタ

この種の母種キヨスミイボタは葉に毛があるもので三浦にはないので削除したい。ケナンキヨスミイボタは大楠山に自生している。

このC群のものはオオバイボタよりも少し花が小さく、葉が尖っているようで、その点で大山や箱根に自生するミヤマイボタ *L. Tschonokii* DECAISNE に近く、ミヤマイボタとオオバイボタの中間的存在のものである。この両者の多くのものを比較検討すれば、このC群を介してミヤマイボタとオオバイボタとが変異的連絡をしてしまうように推定出来るものである。或は又このC群はこれら両者の雑種的なものとも考えられるであろう。

Trachelospermum majus NAKAI チョウジカズラ

この種の学名は *T. asiaticum* NAKAI var. *majus* OHWI としたほうがよいが、本種は三浦では見かけない。恐らく *T. asiaticum* NAK. var. *intermedium* NAKAI テイカカズラの広葉品をまちがえているのではなかろうか。

Cynanchum japonicum HEMSLEY var. *purpurascens* MATSUMURA スズメノオゴケ

Mentha japonica MAKINO ヒメハツカ

Salvia japonica THUNBERG ナツノタムラソウ

この種はないともいいきれないが今のところ見あたらない。本種の学名は *S. lutescens* KOIDZUMI var. *intermedia* MURATA としたほうがよい。

Solanum nipponense MAKINO ヤマホロシ

Viburnum sieboldii MIQUEL ゴマギ

Emilia sonchifolia A. De CANDOLLE ウスベニニガナ

この種は帰化植物だが、三浦地区にあるかは甚だ疑問である。著者の調査では今日のところ見あたらない。

Arundinaria hakonensis NAKAI ヒメスズタケ、ハコネヤダケ

Festuca japonica MAKINO ヤマトボンガラ

この種はトボンガラ *F. parvigluma* STEUDEL より小形で無芒のものであるがこの地区にはないようである。

Hakonechloa macra MAKINO ウラハグサ

Pleioblastus gracilis NAKAI ナヨダケ

Cyperus pilosus VAHL オニガヤツリ

この種は西日本から東南アジアに分布する暖地性のもので、三浦で採集した記録があるが、今日では見あたらない。

Hemerocallis thunbergii BAKER ニウスゲ

この種は高原性植物故、三浦に採集記録があっても甚だ疑わしいものである。

Polygonatum maximowiczii Fr. SCHMIDT オオアマドコロ

Alpinia japonica MIQUEL ハナミョウガ

この種はショウガ科のもので原始林中に稀にあるもので三浦にはない。一名ヤブミョウガの名があるのでツクサ科のヤブミョウガ *Pollia japonica* THUNBERG とまちがえているのではないか。

3 学名の訂正

三浦半島植物誌 (1950) に記録された次の種についての学名を訂正する。

Dactylis sanguinalis SCOPOLI. メヒシバ

この種の学名は *Digitaria adscendens* HENRARD としたほうがよい。

Damnacanthus macrophyllus SIEBOLD ジュズネノキ

この学名は、オオバジュズネノキであって、ジュズネノキの学名は *Damnacanthus major* SIEBOLD et ZUCCARINI と訂正すべきである。

Elaeagnus crispa THUNBERG アキグミ var. *rotundifolia* MASAMUNE マルバアキグミ

この2種の学名を

Elaeagnus umbellata THUNBERG アキグミ var. *rotundifolia* MAKINO マルバアキグミとしたほうがよい。

Plate II の説明

Gastrodia confusa Honda et Tuyama

アキザキ ヤツシロラン

横須賀市鷹取山阿弥陀谷のもの

1. 全形 (二株)
2. 花軸の部分
3. 根茎の部分
 - b. 苞
 - fl. 花
 - sc. 鱗片

Plate III の説明

Gastrodia elata Blume

オニノヤガラ

岩手県栗駒山 (須川岳) のもの

1. 全形
2. 花軸の部分
3. 根茎の部分
 - b. 苞
 - fl. 花
 - sc. 鱗片

文 献

- 神奈川県博物館協会 1958. 神奈川県植物誌 : 75
- 牧野富太郎 1951. 牧野日本植物図鑑 改訂版 : 692
- 前川文夫、原寛、津山尚 1955. 牧野日本植物図鑑 増補 : 1228
- 榎山泰一 1958. 日本のグミ、自然科学と博物館 (25) 3-4: 1-14
- 増島弘行、石渡治一 1950. 三浦半島植物誌 : 26, 27, 28, 29, 31, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 40, 41, 44, 47, 48, 50, 51, 53, 54, 56, 60, 61, 62, 65, 67, 68, 69.
- 大井次三郎 1953. 日本植物誌 : 359-360, 477, 599, 659.
- 奥山春季 1957. 原色日本野外植物図譜 1 : 87.
- 奥山春季 1958. 新帰化植物、自然科学と博物館 (25) 1-2 : 16.

Résumé

Some Notes on Spermatophyte of Miura
Peninsula, Japan (3)

Shigeru OHTANI

(With 2 Plates)

Since publication of the author's last article "Some Notes on Flowering Plants of Miura Peninsula, Japan" in March, 1958, an additional Species, *Gastrodia confusa* HONDA et TUYAMA, was found in Miura Peninsula at Takatori-yama Hill (July 13, 1958), its third location in the Kantō District, Hab. Kantō, There being Kiyosumi-yama Hill in Prov. Awa and Tachibana machi in Prov. Sagami (K. Nishio-Oct. 9, 1957).

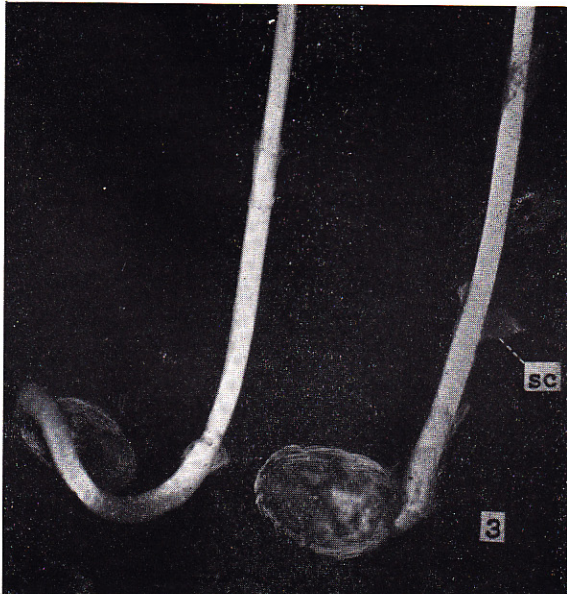
The following species should be omitted from Florula Miurensis, 1950.

Castanea crenata SIEB. et ZUCC. var. *Kusakuri* NAKAI, *Ficus pumila* LINN., *Boehmeria tricuspis* MAK., *Bifaria opuntia* MERR., *Asarum asaroides* MAK., *Chenopodium anthermanticum* LINN., *Achyranthes japonica* NAK. var. *hachijoensis* HONDA, *Cimicifuga acerina* TANAKA var. *obtusiloba* NAK., *Machilus japonica* SIEB. et ZUCC., *Cerydalis makinoana* MATSUM., *Saxifraga fortunei* J. HOOK. var. *glabra* NAK., *Prunus grayana* MAK., *Prunus sargentii* REHD., *Rosa fujisanensis* MAK., *Rosa luciae* FR. et SAP., *Rosa onoei* MAKINO, *Rosa rugosa* THUNBERG, *Lespedeza bicolor* TURCZ. var. *japonica* NAK., *Wistaria brachybotrys* SIEB. et ZUCC., *Rhus trichocarpha* MIQ., *Acer cissifolium* C. KOCH., *Rhamnus davurica* PALL. var. *nipponica* NAK., *Rhamnus japonica* MAX. var. *decipiens* MAX., *Elaeagnus* } *crocea* NAK., *Elaeagnus* } *maritima* KOIDZ., *Elaeagnus* } *submacrophylla* SERVETTAZ, *Elaeagnus pungens* THUNBERG, *Ligustrum acuminatum* KOHNE., *Ligustrum medium* AIT., *Ligustrum obtusifolium* SIEB. et ZUCC. var. *heterophyllum* NAK., *Ligustrum Kiyozumianum* NAK., *Trachelospermum majus* NAKAI, *Cynanchum japonicum* HEMSL. var. *purpurascens* MATSUM., *Mentha japonica* MAK., *Salvia japonica* THUNB., *Solanum nipponense* MAK. ?, *Viburnum sieboldii* MIQ., *Emilia Sonchifolia* A. DC. ?, *Arundinaria hakonensis* NAK., *Festuca japonica* MAK., *Pleioblastus gracilis* NAK., *Cyperus pilosus* VAHL., *Hemerocallis thunbergii* BAKER ?, *Polygonatum maximowiczii* FR. SCHMIDT., and *Alpinia japonica* MIQ.

The classification of the following species, listed in the Florula Miurensis, should be corrected as follows:

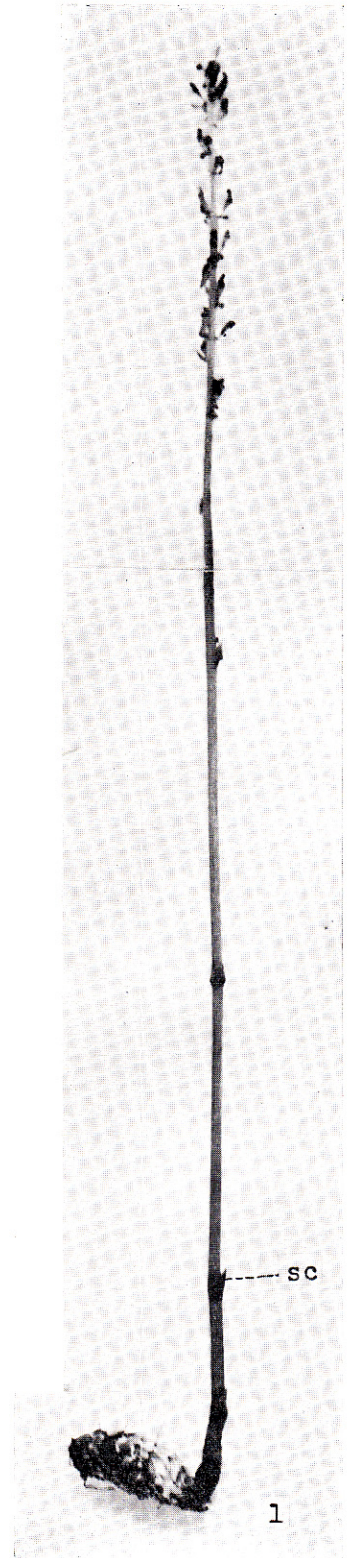
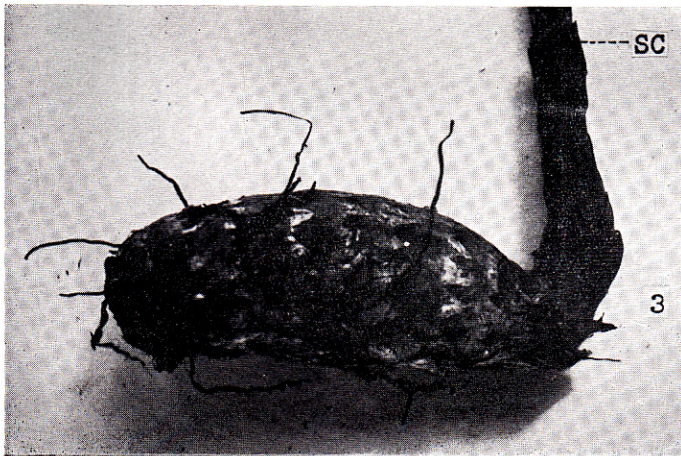
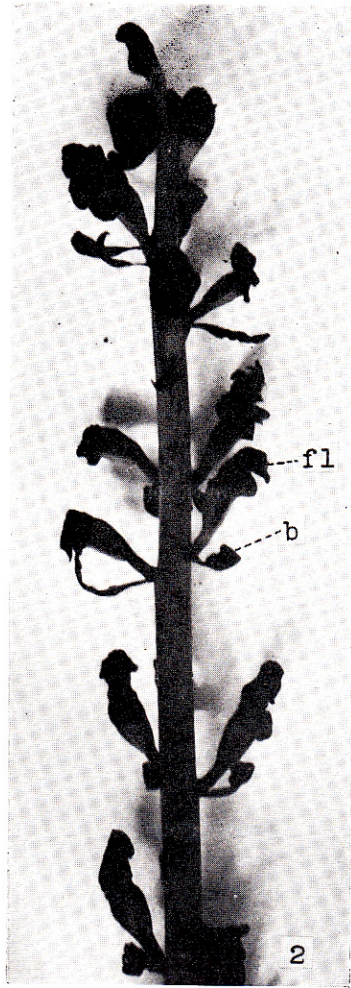
Damnacanthus macrophyllus SIEB. to (*D. major* SIEBOLD et ZUCCARINI), *Dactylis sanguinalis* SCOPOLI to (*Digitaria adscendens* HENRARD), *Elaeagnus crispa* THUNBERG var. *rotundifolia* MASAMUNE to (*Elaeagnus umbellata* THUNBERG var. *rotundifolia* MAKINO).

Most of the above mentioned specimens are to be found in the herbarium of the Yokosuka City Museum.



Gastrodia confusa HONDA at TUYAMA

1. whole form
 2. floral axis
 3. subterranean stem, rhizome
- b. bract
fl. flower
sc. scale



1. whole form
 2. floral axis
 3. subterranean stem, rhizome
- b. bract
fl. flower
sc. scale